

六田晴洋の

私たちの ご近所さん



VOL. 35 個体識別

外見は皆だいたい似たように見える同じ種の生き物でも、人間と同じようにそれぞれ個性があります。ある個体は臆病だけど、別の個体は大胆だったり。同じ場所で何日も撮影していると、顔つきや毛並みなどだけでなく、そうした性格の違いに気付くことがあります。いわゆる個体識別というものです。確証を持つことは難しいですが、その1匹として観察することで多くの発見や面白さがあります。



恋問海岸にたたずむオオワシ



庶路の森に住むエゾモモンガ

逃げないオオワシ

国道38号から、オオワシやオジロワシが流木に止まっている姿を皆さんも見かけるのではないのでしょうか。波打ち際には魚やアザラシなど、ワシにとつてのご馳走がよく打ち上がります。海岸は平坦なため、ワシたちは

少しでも高い位置から食べ物を探しているのでしょう。でもその姿を撮るのは大変です。警戒心が強く、近づこうとただで逃げてしまいます。でもこの写真のオオワシは違いました。慎重に20メートルほどまで接近。最終的には私が遠慮してそこまでにしました。それ以降、逃げないオオワシがここに止まっていると「もしかして

アイツかな？」と愛着が生まれました。今頃は繁殖地の北国に向かっているはず。次の冬も来てくれるかな。

冬のエゾモモンガ

冬、複数のエゾモモンガが一つの巣穴に集まります。日によって数は変わることがありますが、多い時で10匹ほど。身を

寄せ合って暖まるためだと言われています。興味深いのは、そのモモンガたちの関係性。元々はご近所さんだったのか、家族だったりするのか、はたまた、ただの通りすがりなのか。よくわかっていないようです。その理由の一つは、個体識別が難しいからではないかと思えます。

エゾモモンガはシマエナガと並んで、北海道を代表する人気の生き物。見た目のかわいさばかり注目されますが、それ以外の一面も知りたい。

PROFILE

六田晴洋 ろくたはるひろ

1986年生まれ。
2021年に白糠町へ移住。
大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。
<https://rokutaharuhiro.com>

